

研修員's VOICE

Vol. 27

世界各国からJICA沖縄にやって来た
研修員を紹介しています。



ブジョン県で上級保健師として活動するスーザンさん
手にしているのはシエラレオネ版の母子手帳

氏名: Ms. Susan Mariama TUCKER
国名: シエラレオネ共和国 (スーザンさん)

コース名: 公衆衛生活動による母子保健強化(A)

研修期間: 2019年 7月 10日 ~ 2019年 8月 24日

シエラレオネの母子を取り巻く環境

ライオン(レオネ)の山(シエラ)を意味するシエラレオネは、人口756万人(2017年)、面積は71,740km²(日本の1/5)、アフリカ大陸西部でギニア、リベリアと国境を接しています。内戦や感染症、HIV/エイズの影響により、世界でも平均寿命が短い国(51.3歳、2016年)の一つと言われています。

母子保健指標(2015~2016WHO)は、妊産婦死亡率1,360(出産10万対)(日本は5)、新生児死亡率33.2(出生千対)(日本は0.9)、乳児死亡率107(出生千対)(日本は1.9)と深刻な状況です。設備や保健医療人材の不足に加え、若年妊娠や危険な中絶の多さ、妊娠/出産に関する知識の欠如、男性が家族計画に非協力的で女性が毎年のように妊娠と出産を繰り返すことによる母体リスクなど、多くの課題を抱えています。



舗装されていない道をバイクで移動する妊婦

母子手帳の導入から全国展開へ —母子の幸せのために—



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

3 すべての人に
健康と福祉を



妊娠中から出産・産後の状況、子どもの成長を記録し、家庭で保管する母子手帳は、戦後の日本で母子保健の向上に貢献し、今では世界約40か国で導入されています。シエラレオネでも、JICA沖縄の研修に参加した看護官が他国の母子手帳成功例に触発されて、プロジェクトが始まりました。現在は一部地域で試験運用しており、私が担当するブジョン県でも、妊婦192人に配布し、69人が出産しました。母子手帳には、妊娠中に必要な栄養や危険な兆候、出産までに準備する物がイラスト入りで説明されており、字が読めない妊婦にも有効です。母子手帳を持っている妊婦は意識が高く、安全に出産しています。

日本では、子どもの成長後も母子手帳が残っていることや、男性が産前検診や出産に立ち会うことを知り、大変感銘を受けました。シエラレオネでも、母子手帳を紛失しないようビニールケースに入れて配布する、地域リーダーや宗教指導者の男性に家族計画への協力を要請し男性に妊娠/出産に関与してもらうなどの取組みを始めています。

母子手帳をシエラレオネ全国に展開し、母子死亡率を下げるのが私の夢です。母子が幸せになることは、国が豊かになることに繋がると信じています。



ブジョン県ポトルー保健センターでの産前教室 妊婦の手には母子手帳が、後列には男性の出席が見られる